

氏 名 (本籍)	森 本 明 子 (大阪府)
学 位 の 種 類	修 士 (看護学)
学 位 記 番 号	修 士 第 7 9 号
学位授与年月日	平成1 9 年 3 月 2 6 日
学位論文題目	男性糖尿病患者の喫煙行動及び禁煙の準備性と心理 社会的要因との関連

# 論文内容要旨

※整理番号	81	(ふりがな) 氏 名	もりもと あきこ 森 本 明 子
修士論文題目	男性糖尿病患者の喫煙行動及び禁煙の準備性と心理社会的要因との関連		
<p>【目的】本研究の目的は糖尿病外来通院中の男性糖尿病患者の喫煙状況の実態把握、喫煙行動及び禁煙の準備性と心理社会的要因との関連を明らかにすることである。</p> <p>【方法】一大学病院の内分泌代謝・腎臓内科外来を再来受診した 20 歳以上の全男性糖尿病患者を対象として、平成 18 年 4 月～7 月に聞き取り調査及び自記式質問紙調査を実施した。本研究における喫煙行動は喫煙者、禁煙者、非喫煙者の 3 群、禁煙の準備性は無関心期、関心期、準備期の 3 群に分類した。心理的要因の指標としてエゴグラム、社会的要因の指標として家族構成、喫煙する同居者の有無、教育歴、職業の有無を評価した。エゴグラムは 5 つの自我状態(Critical Parent、Nurturing Parent、Adult、Free Child、Adapted Child)の各得点を中央値により 2 値化した。分析は、男性糖尿病患者の年齢階級別喫煙率を算出し、平成 16 年度国民栄養調査(男性)と比較した。次に、男性糖尿病患者の喫煙行動及び禁煙の準備性と心理社会的要因等との関連を<math>\chi^2</math>検定、Fisher の直接確率法、t 検定、Welch 検定、共分散分析、ロジスティック回帰分析を用いて検討した。</p> <p>【結果】調査対象者 636 名うち 633 名から調査への協力が得られた(応諾率 99.5%)。年齢階級別喫煙率の比較では男性糖尿病患者全体の 20 歳代と 40 歳代及び男性 2 型糖尿病患者の 40 歳代のみ国民栄養調査と比べて喫煙率が低かった(p&lt;.05)。エゴグラムの Adult 高得点群は低得点群に比べて多変量調整後も禁煙者が多く、また関心期の者が多かった。エゴグラムの Free Child 高得点群は低得点群に比べて多変量調整後も喫煙者が多かった。教育水準の低い者は高い者に比べて多変量調整後も喫煙者が多く、また無関心期の者が多かった。喫煙する同居者のいる者はいない者に比べて多変量調整後も喫煙者が多かった。</p> <p>【考察】現在、一般的な禁煙支援は喫煙の害や禁煙のメリットについての説明を中心としており、「客観的」「論理的」な側面のある Adult 高得点者はこのような情報を客観的・論理的に判断し、禁煙に踏み切ることが考えられた。一方、Free Child 高得点者は、「衝動的」「自己中心的」といった側面から自身が望む喫煙行動を継続させている可能性が考えられた。教育水準の低い者は医療者から禁煙支援を受ける割合が低いことが指摘されており、医療者側から積極的に禁煙支援の機会を設ける試みが必要と思われた。また、喫煙者との同居は喫煙継続に影響するため同居者を含めた禁煙支援が必要と考えられた。</p> <p>【総括】男性糖尿病患者の年齢階級別喫煙率はわが国の一般男性集団と比べ必ずしも低くなく、糖尿病患者へのより一層の禁煙支援の必要性が示された。また、男性糖尿病患者においてエゴグラムで評価される性格特性をはじめとした心理社会的要因が喫煙行動及び禁煙の準備性に関連していることが示され、心理社会的要因を考慮した禁煙支援方法の導入とその有効性の検討は今後の課題であると考ええる。</p>			